

第 四 章

I 宇土氏・名和氏に関する神社・寺院

西岡神宮 宇土市神馬町字日平に鎮座する西岡神宮は、和銅6年の建立と伝えられている。祭神は春日大明神・住吉大明神・および八幡宮、社号を三宮大明神宮と称した。宇土庄地頭職



1 西岡神社（宇土市神馬町馬場）

宇土氏が菊池氏の一族とみられ、同社に藤原氏の氏神である春日大明神を奉祀することもあるので、三宮大明神宮は宇土庄の庄園神と目されている。

三宮大明神は壇原に勧請されたことは『三宮社記録』で明らかであるが、壇原は現在の中原の通称を有する本町四丁目に相当するが、これが西岡台地に奉遷されたのは宇土城築城の時期と甚しく相違しないと思われる。『三宮社記録』によれば、応仁年間（1467—1469）に宇土城中に稲荷五社大明神社を創建したと伝えられている。今回の調査だけでは、三宮大明神宮が現在地以外の場所にあったとは考え難く、今後の調査にまつ他はない。

しかし慶長六年（1601）に加藤清正が社家屋敷6反を寄進し、この際に御神体等を旧の地に移すと見えるので、中世において三宮大明神宮は既に現在の社地にあったことは疑いない。『肥後宇土軍記』によると、小西行長のとき神社および社人の屋敷は、家中の屋敷となっていたようである。『三宮社記録』に社地は東西3町、南北2町半とあるが、それがどの範囲になるのかは明らかでなく、神殿・楼門・廻廊等の絵図も概ね現状と大差あるとは思われず、新に考察を加える資料も得難い。

宇土庄が叡山領であったこと



2 日吉神社（宇土市神合町神原）



3 極楽寺跡（宇土市神合町神原）

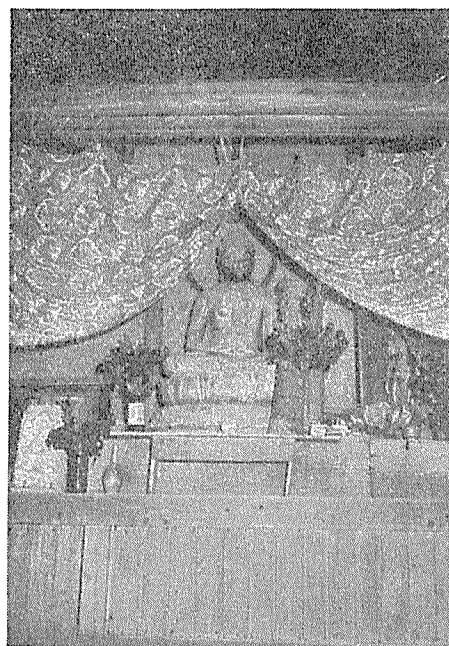
は既に明らかであるが、宇土における比叡山に関係を有する神社、寺院には次のようなものがあった。

日吉神社 現在の宇土市神合町、旧制宇土郡神原村字山王平にある。永正元年、伯耆武顕造立と伝えられているが、更に年代を遡るものと考えられる。伝承によれば、日吉神社は後述極楽寺の鎮守であるというが、極

楽寺がたまたま日吉神社の隣地にあるため、これを幸いとして日吉神社を極楽寺の鎮守としたものであろう。実は、むしろ極楽寺は日吉神社の社僧をつとめていたのではないと思われる。社殿には猿の掲額が多く、俗に縁結の神という。祭日は四月初申日、いま六月十五日。

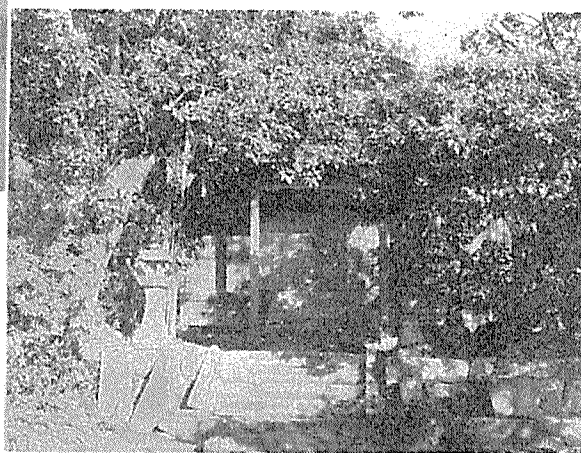
極楽寺 日吉神社に隣りする低地にある廃寺で、現在寺跡に小堂が残っている。宗旨はもちろん開基、興廃等一切不明である。

光園寺 現在の宇土市神合町にある廃寺である。



4 極楽寺本尊（宇土市神合町神原）

現在寺址に毘沙門堂が残っている。天台宗叡山延暦末寺、光園寺陽白山蓮乗院という。永保二年、比叡山實相法印の開基という。本尊毘沙門天、一時退転し



5 光園寺（宇土市神合町神山）

ていたが、寛永十一年、熊本不動院の門弟圓智坊がこれを再興した。近世、寺地年貢免許。明治初年廃寺となった。毘沙門堂の縁日は四月三日。

妙法寺 現在宇土郡不知火町大字小曾部にある。天台宗叡山延暦末寺、別説正覚院末寺。妙法寺中央山金剛院という。本尊大日如来。伝承によれば、同寺はもと能因法師の出迹という。のちここに観海法師これを開基し、延久年中、菊池則隆がこれを建立したという。妙法寺は隣接する八王社の社僧である。その後久しく断絶していたが、寛文三年、僧正圓がこれを再興した。当時寺地は鬼塚にあって



6 妙法寺（不知火町小曾部）



7 稻荷五社大明神社（宇土市本町五丁目）

敷地は七畝三步であったが、延宝のころ現在地に移転した。近世寺地年貢地。



8 天神社（宇土市伊無田町）

宇土彈正大弼為光建立の神社は七社に上る。稻荷五社大明神社は応仁年中、伊牟田村の天神社、小曾部村の八王社、栗崎村の天満宮、長崎村の八王社、鶴見塚村の天満宮、恵里村の権現社はいずれも文明元年の創建という。

稻荷五社大明神 もと三宮大明神宮の末社十二字のうち第三稻荷明神を応仁年中宇土為光宇土城中に移し祭る。当時火災が屢おこり城市おだやかならず、



9 八王社（不知火町小曾部）

このため稲荷社は火鎮めの神として神田を寄進し、徳光氏を社司とした。天正年間、稲荷社を本町五丁目に移した。祭日はもと十一月八日であったが、近世十一月十五日と改め、いま十二月八日を祭日とする。

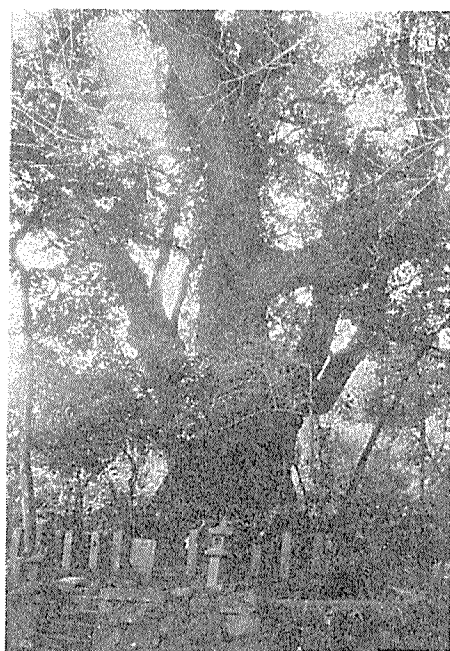
天神社 現在の宇土市伊無田町にある。いま菅原神社という。文明元年、宇土為光、天神社を建て、神田五反を寄付した。祭日はもと十一月九日。

八王社 現在の宇土郡不知火町小曾部にある。いま八王神社という。祭神は国狭槌尊。文明元年建立、社領田七反四畝、畑二反八畝二十一步。妙法寺祭祀を掌る。祭日もと十一月十八日。

天神社 現在の宇土市栗崎町にある。いま菅原神社という。文明元年菊池為光勧請。御神体天神樟。免田三反六畝、祭日もと十一月五日。

八王社 現在の宇土郡不知火町長崎字宮ノ元にある。文明元年宇土為光造立。もと八王大明神と称する。近代村社に列格、八王神社と称する。祭神、国狭槌尊。神領田三町三反一畝、畠三反二畝。祭日もと二月十八日、十一月十八日。

天満宮 現在の宇土市野鶴町鶴見塚字桜畑にある。



10 天神社（宇土市栗崎町）



11 八王社（不知火町長崎）

いま菅原神社と称する。祭神、菅原道真。文明元年宇土為光造立。神田六反、畠二反。祭日もと霜月十一日。

権現社 現在の宇土市恵塚町恵里字尾ノ上にある。近代村社に列格して尾上神社と称する。祭神伊豆権現。文明元年宇土為光造立。社地東西十八間、南北二十五間、敷地一反五畝十六歩、祭日もと正月五日。三月三日。九月五日。九



12 天満宮（宇土市野鶴町鶴見塚）

月二十九日。いま十一月十三日。

また同年、網津の天満宮の創建に際し、宇土為光は神田三反を寄付した。

名和顯忠の建立したる神社二。

妙見宮 現在の宇土郡不知火町浦上にある。白木社と号する。いま社号を改めて浦上神社という。永正二年名和顯忠造立。神田一町五反。祭日、もと霜月十三日。



13 権現社（宇土市恵塚町恵里）



14 天満宮（宇土市網津町）

小八幡宮 現在の宇土市宮庄町にある。永正十年名和顯忠造立。神田三反七杖、畠二反六杖、祭日もと十一月二十九日、のち十一月七日と改め、また十一月十日に改めた。



15 妙見宮 (不知火町浦上)

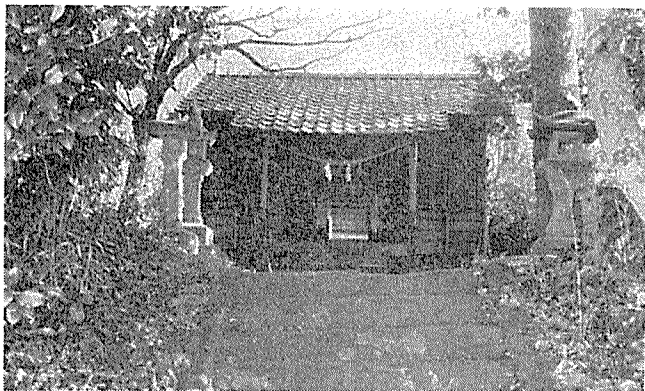


16 小八幡宮 (宇土市宮庄町)

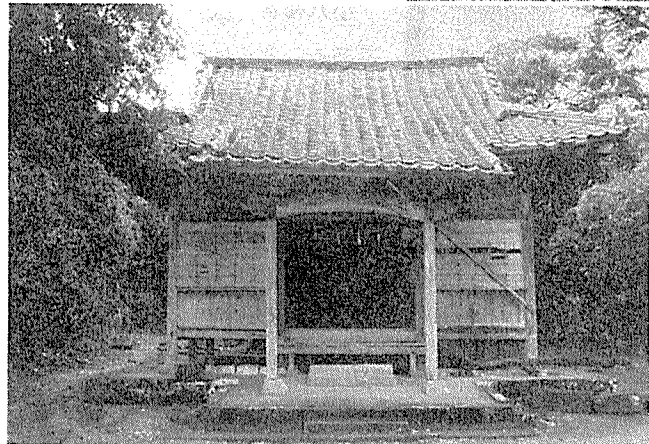
名和武顯建つところの神社三。

天神社 現在の宇土市恵塚町飯塚にある。いま菅原神社という。永正元年名和武顯造立。神田三反。祭日もと十一月二十五日。

八幡宮 現在の宇土市椿原町和田ノ上にある。近代村社に列格して椿原八幡宮と称する。祭神応神



17 天神社 (宇土市恵塚町飯塚)



18 八幡宮 (宇土市椿原町)

天皇、明治九年、菅原道真を合祀した。神田一町、畠一町、燈明田一反三杖。永正二年、名和武顯勧請。社地東西十六間、南北三十二間六合、敷地一反七畝十一歩。祭日、もと三月三日、五月五日、五月二十九日、八月十五日、いま十一月十三日。



19 白山権現（宇土市神合町神山）

二年、村社に列格して長浜神社という。祭神 菅原道真。天文十六年、名和行興、三宮頼幸に命じて造立した。境内九十坪、氏子 120 戸。祭日は八月二十五日、いま十月二十五日。

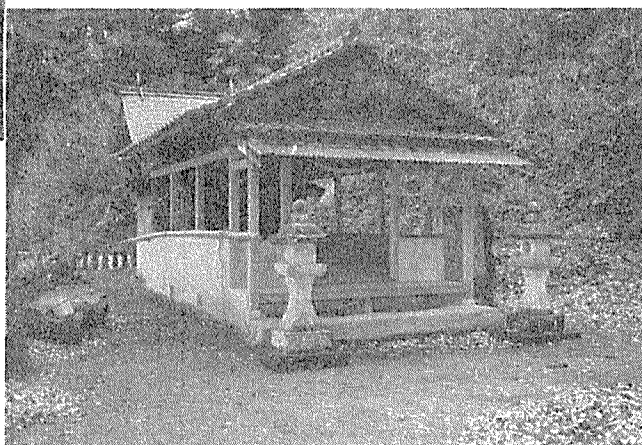
宗福寺跡 宇土市椿原町字居屋敷にあり、山号椿原山。曹洞宗。本尊は地藏菩薩。八代郡宮地谷村悟真寺の末寺、永正年間（1504～1521）に名和伯耆守が名和家菩提寺として建立した。開山は利屋貞和尚である。『八代日記』に（天文十五年）六月十二日、「宇土武顕死去、同十六ニ宇土武顕訪ニ増福寺御行候」と見える。名和武顕

日吉神社 現在の宇土市神合町神原字山王平にある。

名和行興造立するところの神社二。ほかに名和行興を祀る上之宮が神合神社の側にある。

白山権現 現在の宇土市神合町神山字白山にある。近代村社に列格して神合神社という。祭神、伊弉册命、菊瑾姫命、泉道守、名和伯耆守行興創建という。社地東西二十間、南北三十六間五合、社叢にかこまれた敷地一反七畝二十歩。祭日は六月二十五日。

天満宮 現在の宇土市長浜町字東にある。明治十



20 天満宮（宇土市長浜町）



21 宗福寺跡（宇土市椿原町）

死去の日は6月11日であるが、訃報の八代に伝わったのは12日であったものと思われ、16日相良氏の弔問があったことが窺われる。

居屋敷 544番（宅地）230坪、同所 546番の2（山林）1畝12歩、同所 545番（墓地）4畝8歩は椿原町の維持管理によって今日にいたっている。宗福寺跡は昭和五十二年一月、宇土市文化財に指定された。

宗福寺に本尊地藏菩薩立像のほか、開山利屋貞和尚の木像、名和武顕・宇土行興の位牌、名和行直の墓がある。境内に六地藏が安置され、椿原の椿が繁茂している。宗福寺の附近 559番に野面積の石垣が残っているが、その築造については明らかでない。（井上・高木）

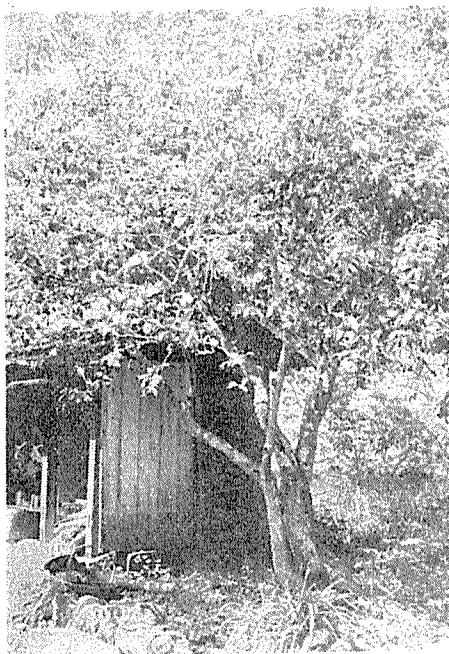
写真撮影は 一 宗雄氏による。



22 名和行直の墓（宗福寺境内）



23 名和家の位牌（宗福寺）



24 椿原の椿（宗福寺境内）

終章

総 括

昭和48年12月、宇土市議会全員協議会で西岡台に市立鶴城中学校の新校舎を建てることが決定された。しかし同地が宇土市指定史跡であるために翌昭和49年1月19日、臨時に市文化財専門委員会が開催され諮問された結果、学校用地として遺跡の現状変更も止むを得ないとの結論に達した。

以後、市は用地買収を進める一方、記録保存のための発掘調査について県文化課の助言を受けながら西岡台遺跡調査団を編成した。

この間に西岡台の西北端に所在する轟貝塚（西岡台地区）の一部が民間により採土されはじめたために、市は採土を中止させ県文化課に確認調査を依頼した。

西岡台遺跡（宇土城跡）の調査は昭和49年3月2日に始まり昭和51年3月25日をもって終了した。ひきつづき前記轟貝塚（西岡台地区）について、新たに領域確認調査を実施した。

発掘調査においては千畳敷、三城をはじめとして、以下に述べるような重要な遺構が発見され、西岡台遺跡を守る会、宇土文化の会などによる保存運動がおこり、用地買収も難航するにいたった。そこで市は当初の目的を変更し同地を保存することに決定した。

調査は千畳敷、三城をはじめとする各地区の発掘調査と宇土城関係文献調査の二方面から進められた。その結果を要約すれば下記の通りである。

ア、西岡台は宇土城跡である。

鎌倉末期の宇土庄地頭職宇土道光、その後の菊池氏一族宇土為光、永正～天正年間の名和氏が宇土城に在城したことは別冊文献史料でも知られる通り全く疑問の余地はない。ただ、その場合にいう宇土城が西岡台にあったのかどうかについては、明確な文献史料もなく、西岡台の本来の名称である西岡あるいは西岳なるものは天正17年小西行長が宇土城の中心を城山に移してから以降、同地が城山の西に位置するということからつけられた呼称であり、近世以降のものである。そのため西岡に城があったというような形で記述された中世の記録はない。ただ『肥後国志略』・『宇土郡村誌』には城山の西に伯耆家の城があったという伝承は記されている。しかも宇土において城としての伝承が残されているのは石瀬・城山・西岡台であるが、中でも西岡台は規模も大きく中世の宇土城は西岡台の地をおいて他には考えられない。

イ、千畳敷について

遺跡の中で最も重要な千畳敷頂上平場および、その北側と東側については地権者の同意が得られず発掘できなかった。しかし頂上平場より一段低い平坦部には、西と南を発掘することができ、そこに古墳時代のV字溝と中世の大溝が重複して検出された。古墳時代のV字溝は、溝

底近くから多量に検出された土師器により4世紀末から5世紀初頭の時期に掘られた防禦用の溝であることが明らかになり、宮城県山前遺跡^①にその類例がみられる。しかもこれと重複して検出された中世の溝は、そのあり方から頂上平場をとり囲んでいるのは間違いなく、そこが宇土城（西岡台）の詰の郭であるにふさわしい堅固な守りが施されていた。このことは『宇土郡村誌』にみられるように千疊敷が本丸であったことは間違いのないところであろう。

ウ、三城について

頂上平場およびその周辺に多数の柱穴が検出され、頂上平場に4棟、その周辺で6棟の建物址を確認することができた。建物は比較的簡略な構造をもったものが多く、周辺部ほどその傾向があり、倉庫などの施設が考えられる。建物および一連の施設の時期は、にわかに決定したいが明時代の染付や土師器皿の形態などから室町期のものであらうと考えられる。

エ、轟貝塚（西岡台地区）について

台地の西北端に存在する貝塚で、縄文時代早期末から後期までにおよぶ遺物が検出され、新しい発見もあった。水田をはさんで対峙する轟貝塚（宮庄地区）とかなり共通するものがあり、長い期間共存していたことがしれる。しかも土器以外の遺物をみても石器、貝製品などにも共通している。これらのことは接近した二つの貝塚で、ひとつだけでは不十分であり、両方が組合わさった形で存在していたことは重要である。

以上のとおり、本調査によって全国的に類例のすくない古墳時代の防禦的施設のV字溝が発見され、また伯耆殿屋敷として地域に親しまれていた中世城跡が確認されたことは、本調査の意義を高らしむるものである。（原口）

註

① 『山前遺跡』宮城県小牛田町教育委員会、1976年 宮城



版



1 宇土城跡（西岡台）空中写真



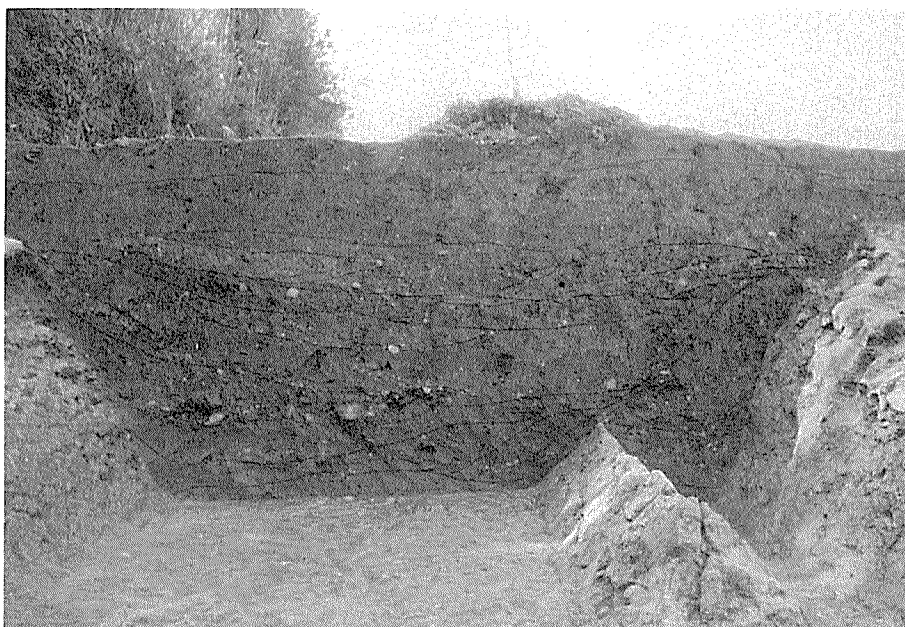
2 宇土城跡(西岡台)遠景（南側より）



3 千疊敷SD01内出土の古式土師器群



4 千畳敷西側SD01・02の重複状況



5 千畳敷SD01・02土層断面



6 千疊敷S D02出土石塔群



7 千疊敷S D02土層断面



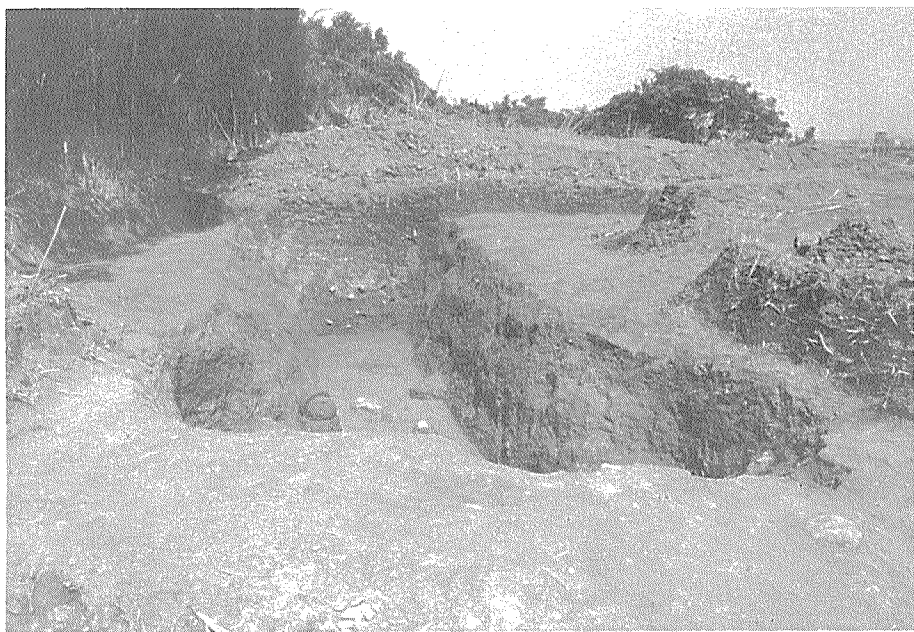
8 千疊敷SD02南西コーナー部



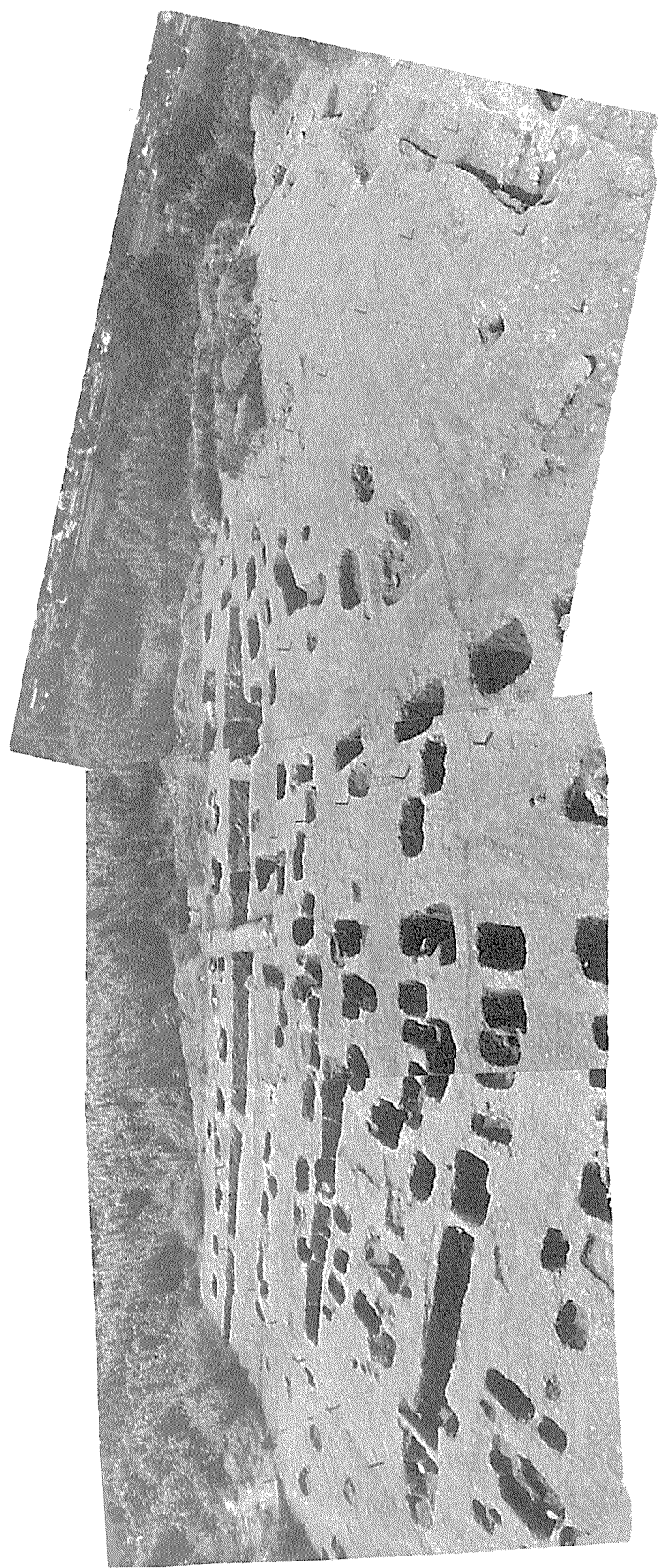
9 千疊敷SD03



10 千畳敷SK02出土人骨



11 千畳敷SD03 (南側より)



12 三城柱穴群 (北より)



13 三城柱穴検出状況



14 三城S B03



15 三城S B04



16 三城S B08



17 三城S D07



18 三城S D07断面



19 三城S D 09



20 三城S D 10, 11



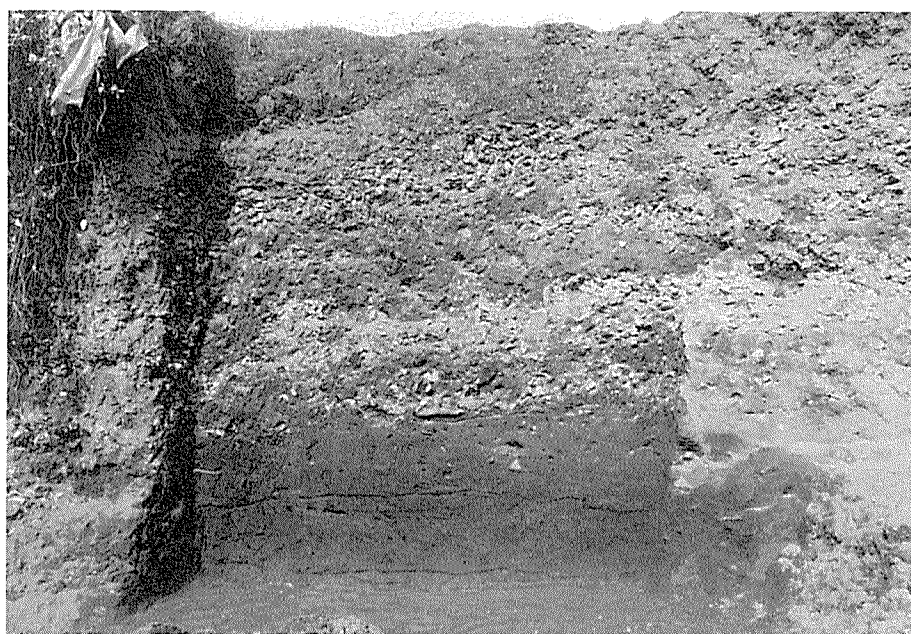
21 三城S K 05



22 三城S D 10内石臼出土状況



23 C地区SB16



24 轟貝塚（西岡台地区）貝層断面

宇土城跡（西岡台）

宇土市埋蔵文化財調査報告書

第 一 集

—— 本 文 編 ——

昭和52年2月10日印刷

昭和52年2月15日発行

編 集 宇土市教育委員会

発 行 宇土市教育委員会

印 刷 株式会社 秀 巧 社

熊本市国府4丁目10-18

